



国際移民の社会経済的地位上昇の可能性

著者	竹ノ下 弘久
発行年	2012-03-31
出版者	静岡大学
URL	http://hdl.handle.net/10297/7013

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 3 月 31 日現在

機関番号：13801

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730409

研究課題名（和文） 国際移民の社会経済的地位上昇の可能性

研究課題名（英文） International migration and their possibilities of socioeconomic advancement

研究代表者

竹ノ下 弘久（TAKENOSHITA HIROHISA）

静岡大学・人文学部・社会学科

研究者番号：10402231

研究成果の概要（和文）：本研究は、国際移民の社会経済的地位上昇の可能性について、主として日系ブラジル人を事例に明らかにする。ブラジル人の多くは、間接雇用をはじめとするフルタイムの非正規雇用に従事するが、かれらの一部は、より安定した直接雇用のフルタイムの仕事に従事している。その規定要因について分析を行ったところ、学歴、就業経験、日本語能力、滞在年数などの人的資本の効果が限定的であり、社会関係資本やマクロな制度的状況の影響が大きいことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This study argues how Brazilian immigrants in Japan attain the socioeconomic advancement. Many Brazilian immigrants in Japan have been involved in dispatched employment controlled by labor brokerage agencies, and their employment is highly unstable in the labor market. Nevertheless one in ten Brazilian workers have been employed directly by firms, not employment intermediaries. Empirical evidence suggests that while the human capitals of Brazilian immigrants have weak influences on the likelihood of getting stable employment, their social capital and institutional settings surrounding immigrants in Japan have substantial impacts on the likelihood of attaining the direct employment.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計			

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：階級・階層・社会移動

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、日本の国際移動や国際移民を対象とする研究が、実態調査にもとづき活発に行われており、都市社会学や地域社会、産業構造・労働市場に注目する研究は、本研究も参照するべきものである。しかし先行研

究の多くは、インタビューやフィールドワークを用いた少数事例を追跡する質的調査にもとづくものであり、大規模標本を用いた量的調査は、あまり行われてこなかった。他方で、アメリカやヨーロッパ諸国の移民研究では、計量分析の手法を用いて、社会階層論の

理論枠組みを活用する研究が盛んに行われてきた。さらに近年では、国際移民の階層移動について、国際比較研究も行われている。しかしこれらの先行研究も、比較の範囲は西洋諸国に限定され、アジア諸国の国際移民を対象とする研究は、応募者のこれまでの研究を除きまったく行われていなかった。

2. 研究の目的

本研究は、日本における国際移民の社会的な地位上昇の可能性について、日系ブラジル人を主たる事例として明らかにすることをめざす。具体的には、以下の点に注目する。第1に、国際移民の社会的な地位上昇移動を適切にとらえる分析モデルを構築し、実際に日本の国際移民の上昇移動を阻害する要因を特定化する。第2に、地位上昇を果たす層に焦点を当て、詳細な分析を加えることで、かれらの移動のプロセスを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、日系ブラジル人を事例として、国際移民の社会的な地位上昇移動のプロセスやその経路を明らかにすることを目的としている。そのために本研究では、これまでの先行研究があまり採用してこなかった計量的アプローチを用いて、分析を行った。具体的には、静岡県庁が2007年に静岡県内に居住するブラジル国籍者を対象に行われた「外国人住民の労働と生活についての実態調査」によって得られた個票データを用いて、分析を行った。

4. 研究成果

国際移民の社会的な地位上昇移動のプロセスやその経路を明らかにするために、次の3つの指標に着目して、その規定要因に関する分析を行った。それらは、間接雇用と直接雇用といった従業上の地位、本人の所得、および、世代間での上昇移動の可能性を探索するための子どもの教育達成、である。

従業上の地位についての分析では、次の点が明らかになった。第1に、本人の学歴、日本語能力、滞在年数といった人的資本の効果は、一部で上昇移動を可能にするものもみられたが、きわめて限定的な影響力しかもっていなかった。第2に、雇用の流動化の進展する日本社会において、近年になるほど、ブラジル人の安定的な直接雇用への移動が困難になっていることが明らかになった。第3に、国境を越えて形成されたジョブ・マッチングの制度を利用して来日するものほど、来日時の非正規雇用への移動を強めていることが明らかになった。

第4に、社会関係資本の効果について検討したところ、結束型のブラジル人同士や親族との社会関係資本よりも、日本人との橋渡し型の社会関係資本の方が、不安定な間接雇用の仕事から、より安定的なフルタイムの直接雇用の仕事への移行を可能にしていた。この研究では、全体として、日本の労働市場をめぐる制度編成やそれにもとづいて形成された国際移住のシステムに、日系ブラジル人の上昇移動の可能性が大きく制約されていることが明らかとなった。社会関係資本という点では、ブラジル人の多くは、エスニックな紐帯を活用する傾向が強いが、上昇移動のためには、日本人との紐帯が重要であることが明らかとなった。

所得についての分析では、とりわけ、男女比較を重視して分析を行い、以下の諸点が明らかとなった。第1に、男女いずれも、人的資本の所得に及ぼす効果は限定的であったものの、男性よりも女性の方が、学歴、就業経験、日本社会への適応に関する諸変数の効果は、きわめて弱いものであった。第2に、不安定な間接雇用とフルタイムの直接雇用とで、所得の比較を行ったところ、一般に言われているほどの大きな相違は見られなかった。その理由として、非正規雇用の中でも、派遣・請負などのフルタイムの間接雇用者に対しては、パート・アルバイトと比較して、相対的に高い賃金が支払われていることが関係している。また、日本人と比較して差別的な処遇を受けている可能性があることも考えられるが、この厳密な検証は、今後の課題である。

第3に、間接雇用の形で働く日系ブラジル人の多くは、時間当たりで賃金が支給される。その結果、年収に対しては、週当たり労働時間の効果が、他の人的資本よりも非常に強い効果をもつことが明らかになった。第4に、日系ブラジル人が、現状で効率的に所得を高めるには、長時間労働や残業を提供する雇い主を見つけることが、非常に効果的である。社会関係資本の効果について検討したところ、ブラジル人同士のネットワークは、より長時間労働の職場を探索するのに効果的であることが、明らかとなった。ブラジル人同士の結束型の社会関係資本は、労働時間を媒介にして、所得を高める効果を有することがわかった。

最後に、世代間での階層移動の可能性を検討するために、子どもの教育達成、具体的には子どもの高校進学について分析を行い、次のことが明らかとなった。第1に、家族の社会的背景として、親の学歴、父親のフルタイムの直接雇用の就業と母親の就業が、子どもの高校進学の可能性を高めることが明らかとなった。日系ブラジル人の多くが、間接雇用をはじめとする非正規雇用のセクタ

一に包摂されていることをかんがみると、安定的な雇用が、子どもの進学においても重要な意味をもつことがわかった。第2に、親子の言語使用の状況は、親子関係を左右する重要な要因である。親が十分な日本語能力を有することで、子どもとの間で役割の逆転が起きにくく、十分な親ら子への教育のサポートが可能になる。こうした親子間での文化変容のあり方は、一致型文化変容と呼ばれており、こうした状況について、親の日本語能力を指標に用いて検討を行ったところ、高い親の日本語能力は、子どもの高校進学の可能性を高めることが、分析から示された。

第3に、子どもの来日時期について検討した。移民の1.5世代や第2世代のホスト社会への適応のあり方については、様々な議論がなされている。分析では、10歳から14歳の時期に来日した子どもほど、高校進学の可能性が小さくなることが分かった。

第4に、受け入れの文脈という概念を用いて、高校進学の可能性についての地域間比較を行ったところ、ブラジル人の人口が集積し、以前からブラジル人をはじめとする移住者支援を自治体が積極的に行ってきた浜松市に居住するブラジル人ほど、その子どもの高校進学の可能性が高まることが明らかとなった。

第5に、親のトランスナショナリズムの効果について検討したところ、家族が、日本とブラジルを数回行き来した経験があるほど、子どもの高校進学の可能性が低下することが分かった。日系ブラジル人の日本での法的滞在地位は、日本とブラジルとの自由な往来を可能にするものである。来日後、一貫して日本に居住を続けるものもいれば、日本とブラジルを行き来しながら、生活するものもみられる。そうした国境を越えた生活形態は、子どもの高校進学に不利に働くことが、あらためて確認された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

① Takenoshita, Hirohisa. 2013(in press) “Labour Market Flexibilisation and the Disadvantages of Immigrant Employment in Japan: The Case of Japanese-Brazilian Immigrants.” *Journal of Ethnic and Migration Studies* 39. 査読有

② Takenoshita, Hirohisa, Yoshimi Chitose, Shigehiro Ikegami, and Eunice A. Ishikawa.

2013(in press) “Segmented Assimilation, Transnationalism, and Educational Attainment among Brazilian Immigrant Children in Japan: A Case of Japanese Brazilian Immigrants in Japan.” *International Migration* 51、査読有

③ Takenoshita, Hirohisa. 2011. “The Economic Incorporation of Brazilian Migrants in Comparative Perspective: A Preliminary Study of Brazilian Labour Market Outcome in Japan and the United States.” 『哲学 (三田哲学会)』125集: 167-202. 査読無

④ 竹ノ下弘久 2011「階層構造、福祉レジーム、移民労働者——経済危機と日系ブラジル人の大量失業」佐藤嘉倫編『現代日本の階層状況の解明——ミクロ-マクロ連結からのアプローチ』科学研究費補助金 (基盤研究 A) 研究成果報告書: 189-210. 査読無

⑤ 竹ノ下弘久 2009「日系ブラジル人をめぐる雇用・労働」池上重弘・エウニセ石川アケミ編『静岡県外国人労働実態調査の詳細分析』静岡文化芸術大学: 42-59. 査読無

⑥ 竹ノ下弘久 2009「若年層の日系ブラジル人をめぐる教育機会の不平等——出身階層と高校進学結びつきに関する日本人との比較」池上重弘・エウニセ石川アケミ編『静岡県外国人労働実態調査の詳細分析』静岡文化芸術大学: 103-114. 査読無

[学会発表] (計11件)

① Takenoshita, Hirohisa. 2011 “Labour Market Flexibilisation and the Disadvantages of Immigrant Employment in Japan: The Case of Japanese Brazilian Immigrants.”第52回 数理社会学会大会報告、信州大学、9月6日—7日

②竹ノ下弘久 2011「社会階層をめぐる移民労働者——日系ブラジル人を事例に」三田社会学会シンポジウム『21世紀日本社会の階層と格差』での報告、慶応義塾大学、7月11日。

③Takenoshita, Hirohisa. 2011 “The Impact of Economic Recession on Unemployment among Immigrants: The Case of Japanese Brazilian Immigrants in Japan.” Paper presented at the meeting of Global Migration and Multiculturalism, held at the Centre for Research on Nationalism, Ethnicity, and Multiculturalism, University of Surrey, June 28-29.

④ Takenoshita, Hirohisa. 2010. “Segmented Assimilation, Transnationalism and Educational Attainment of Children of Brazilian Migrants in Japan.” 日本社会学会大会英語部会での報告 (名古屋大学)、11月6-7日

⑤ Takenoshita, Hirohisa. 2010. “Segmented Assimilation, Transnationalism and Educational Attainment of Children of Brazilian Migrants in Japan.” Paper presented at the annual meeting of American Sociological Association, held at Hilton Atlanta, Atlanta, August 14-17.

⑥Takenoshita, Hirohisa. 2010. “Exit out of the Precarious Employment among Brazilian Migrants in Japan? The Role of Social Capital.” Paper presented at the annual meeting of American Sociological Association, held at Hilton Atlanta, Atlanta, August 14-17.

⑦Takenoshita, Hirohisa. 2010. “Exit out of the Precarious Employment among Brazilian Migrants in Japan? The Role of Social Capital.”

Paper presented at the meeting of Asian Studies Conference Japan, held at Waseda University, Tokyo, June 19-20.

⑧ Takenoshita, Hirohisa. 2009. “Segmented Assimilation, Transnationalism and Educational Attainment of Children of Brazilian Migrants in Japan.” Paper presented at the International Conference on Migration, Citizenship and Intercultural Relations, held at Deakin University, Melbourne, Australia, 19-20 November.

⑨Takenoshita, Hirohisa. 2009. “Earnings and Japanese Brazilian migrants: A Comparison with native-born Japanese workers.” Paper presented at the annual meeting of American Sociological Association, held at San Francisco, 8-11 August.

⑩Takenoshita, Hirohisa. 2009. “Transition into the secondary education among children of immigrant: the case of Japanese Brazilian migrants.” Paper presented at the Asian Studies Conference Japan, held at Sophia University, 20-21 June, 2009.

⑪ Takenoshita, Hirohisa. 2009. “Earnings disparity between immigrants and native-born workers in Japan: Human capital, labor market segmentation and labor demand.” Paper presented at the research committee 28 on social stratification, International Sociological Association, held at Renmin University of China, 14-16 May, 2009.

[図書] (計3件)

① Huynh Truong Huy (ed). 2013 (in press). *Migration: Practices, Challenges and Impact*. Hauppauge NY: Nova Science Publishers. 竹ノ

下弘久が分担執筆、ページ数未定。

②石川義孝編 2011『地図でみる日本の外国人』ナカニシヤ出版、20-21 と 28-29 を竹ノ下弘久が分担執筆。

③Wong, Tai-Chee and Jonathan Rigg (eds).
2010. *Asian Cities, Migrant Labour and Contested Spaces*. London: Routledge, 156-174
について Takenoshita, Hirohisa が分担執筆。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹ノ下 弘久 (TAKENOSHITA HIROHISA)
静岡大学・人文学部・准教授
研究者番号：10402231

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：